

## 平成30年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）実績報告書

（平成31年3月）

報告者氏名・所属	水上 丈実（旭川校教職大学院）
研究プロジェクトの名称	地域に貢献する人材育成のための大学院生・学生の授業力向上プロジェクト —北海道教育大学におけるマイクロティーチングの開発—
プロジェクト担当者 （氏名・所属・職） ※代表者に●を付すこと	●水上 丈実・教職大学院旭川校・教授 藤川 聡・教職大学院旭川校・教授
研究プロジェクトの概要等（研究期間全体）	
<p>本プロジェクトは、教員養成機能における北海道の拠点的作用を果たすため、教員に最も必要な授業力の向上を目指すことを目的とする。</p> <p>現在、実際の授業実践を行う場は、学部においては教育実習しかない。また、大学院においても実地研究の中で、幼稚園・小・中学校などの現場にしかない。そこで、筆者らは模擬授業を「導入・展開・整理」などに分割し、その中から目的に応じて一部分を切り取り、効果的に短時間で多くの学生が模擬授業に取り組むことのできる「マイクロティーチング」に着目し、実践報告と教育効果の検証を行っている。しかし、それらをさらに発展させる上で、ソフト面及びハード面において様々な課題を抱えている。</p> <p>本プロジェクトでは、筆者らによる先行研究を分析、再構成し、本学における効果的なマイクロティーチング・カリキュラムを開発する。さらに、模擬授業やマイクロティーチングが手軽に行える環境整備（マイクロティーチングルームの常設）を行った。</p>	
研究実績の概要（当該年度）	
<p>設計したマイクロティーチングルームでの本格的な授業実践を行った。特に、「子どもの学びを拓く授業づくり（新科目名：授業づくりの実際）」において、一人4回程度の模擬授業を行い、授業力の変容を確かめた。そして、それに基づいて、マイクロティーチングの方法をテキストにまとめた。次期学習指導要領で求められるアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）を実現できる教師を目指すことができた。その結果、受講者の学部卒大学院生の授業アンケートからは、「自分の授業力向上につながった」、「目標と評価の一体化の重要性に気が付いた」などの感想を得た。また、現職の大学院生の授業アンケートからは、「学校の研修にも取り入れていきたい」、「校種や専門教科の違う院生とのマイクロティーチングでの交流は目的、授業展開等の特質が分かり、小中高を見据えた授業づくりの必要性が分かった」など、教職大学院ならではの感想も得ることができた。</p> <p>授業実践した授業資料は、テキストにすべく整理中である。現段階で実際に使用したテキストを添付する。また、水上は、北海道教育委員会の各教育局の「ミドルリーダー養成研修」（延べ9つの教育局）、学力向上授業改善推進事業の指定校など（3年間で延べ30校）への助言・講演の際に、マイクロティーチングの活用について紹介した。小中学校の現場においては、研究授業の前に他学級で1単位時間の模擬授業を行うことが多いが、自らの授業力改善のための研修は行われていない。それを効果的に実践できる方法を紹介した。働き方改革の推進が求められる学校現場では、短時間で効果的に授業力を向上させる手立てが必要になる。それに寄与するものと考えている。</p> <p>マイクロティーチングルームの設備の充実については、2年目の昨年度で授業録画システムの構築を行い、最終年度の本年度で録画した授業の音質改善のための録音マイクの購入と授業実践する際に必要な実物投影機やモニターを購入することで完璧なものとなった。このシステムについても、広めていきたい。</p>	

### 今後の研究プロジェクトの推進計画

本年度で3か年の研究は終えるが、教職大学院の授業実践は続くのでより改善を加えていくとともに、授業開発分野の他の授業での活用を推進したい。例えば、水上が主担当の「道德教育の諸理論と授業づくり」では、現在、授業のゴールを道德科の指導案づくりにしているが、作成した指導案でマイクロティーチングを行うことをゴールとするなどマイクロティーチングの活用に努めたい。

現段階で考えているカリキュラムのイメージは下図の通りである。

つまり、一つの授業でマイクロティーチングを行うのではなく、あらゆる授業開発分野の授業で横断的に実践するのが効果的と考える。

例えば、「教科等の実践的指導力の育成」の授業では自らの専門教科のマイクロティーチングを、「道德教育の諸理論と授業づくり」の授業では、道德の授業のマイクロティーチングを、そして、「総合的な学習のカリキュラム開発」の授業では総合的な学習の時間のマイク

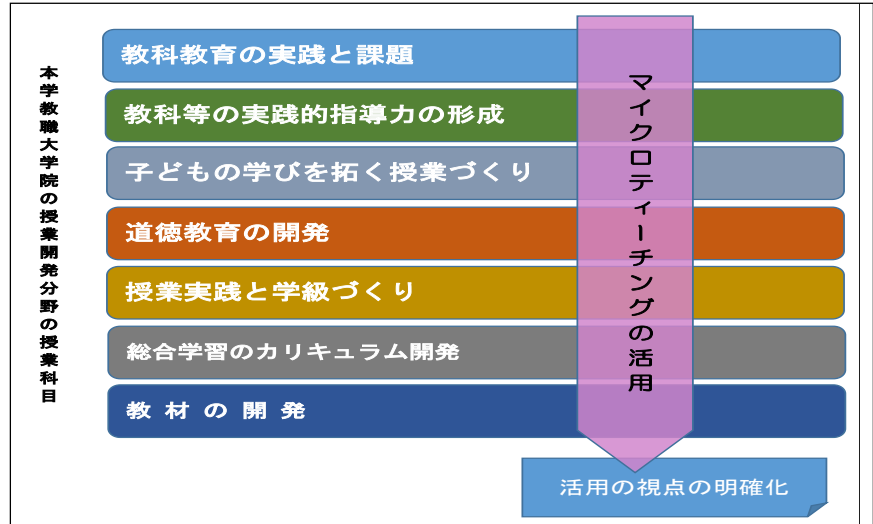


図 マイクロティーチングを用いたクロスカリキュラム構想

ロティーチングを行うなどして、マイクロティーチングを用いたクロスカリキュラムを開発する。そのことで、指導技術育成のためのマイクロティーチングから、指導内容・教材開発・学習過程・学習形態など授業づくりのあらゆる視点との関連が浮き彫りになり、授業づくりを多面的・多角的に見ることのできる力を育成するマイクロティーチングの実践へと高めることができると考えている。

最後に、研究のまとめを行い、学会発表及び論文投稿を行うと同時に、テキストを発刊し、その成果について広めたいと考える。本年度、日本カリキュラム学会が本学で行われたため、理事である藤川も事務局担当の水上也、運営に追われ、発表の機会が得られなかったため、来年度の学会発表としたい。

### 教育現場や地域での活用等

研究実績の概要のところでも述べたが、講師として招聘された北海道教育委員会各種事業の助言・講演等でマイクロティーチングの紹介をしていることで、特に初任者指導等に活用したいとの声もいただいている。

次に、地域貢献や教育委員会との連携を考えた場合、常設のマイクロティーチンググループを初任者段階研修等に開放し、我々大学教員の指導で、模擬授業とその授業検討を行うなども考えられるので、北海道教育庁上川教育局や旭川市教育委員会との共同を推し進めたい。

### 研究成果の公表実績（当該年度）

【著書】

【学術論文】

【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等

1 水上丈実 北海道教育庁オホーツク教育局「ミドルリーダー養成研修」平成30年 9月  
北見市 参加者数約150名

2 水上丈実 北海道教育庁日高教育局「学力向上・授業改善推進事業」 平成30年11月  
新ひだか町立高静小学校公開研究会 参加者数約130名

その他 水上丈実 各種研究会等でマイクロティーチングの有用性について紹介した。

【テキスト、報告書、研修資料等】

北海道教育大学教職大学院 授業開発分野選択科目「子どもの学びを拓く授業づくり」授業  
テキスト 平成30年4月～6月 (資料2)

添付資料	<資料1> 「マイクロティーチングの教育効果に関する一考察 —教職大学院における協同学習の事例より—」  <資料2> 教職大学院授業テキスト「子どもの学びを拓く授業づく り」 平成30年度 第1クォーター使用
ダウンロード可能な ドキュメント	下記関連URLに掲載予定
関連URL	<a href="https://jugyo-asahi-hue.jimdo.com">https://jugyo-asahi-hue.jimdo.com</a> 今のところ未掲載，随時掲載していきます。
問い合わせ先	氏名： 水上 丈実 (教職大学院旭川校) 電話： 0166-59-1426 E-mail： mizukami.takemi@a.hokkyodai.ac.jp